

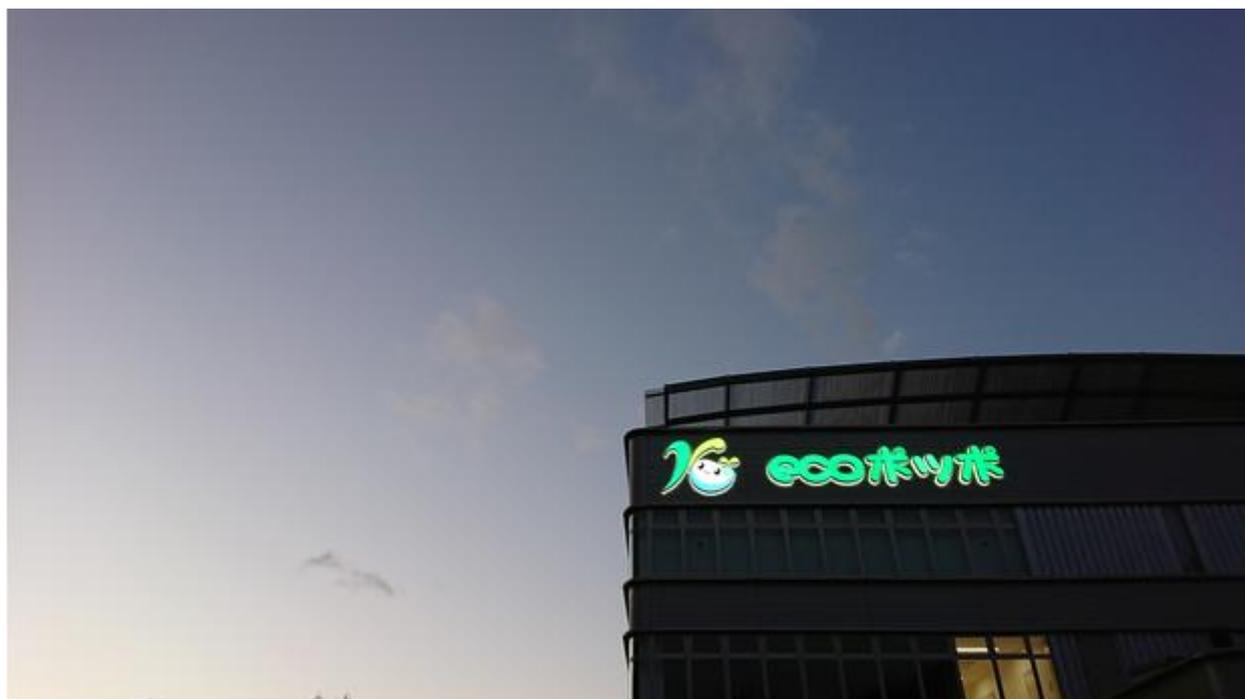


2024年度 環境経営レポート



環境省
エコアクション21
認証番号 0012745

活動期間 2024年4月～2025年3月



発行 2025年4月

承認	作成
松本	村越

諏訪湖ハイトラスト株式会社

目次

1. 事業活動の概要	・・・	P 1
2. 主要設備概要	・・・	P 4
3. 実施体制	・・・	P 5
4. 環境経営方針	・・・	P 6
5. 環境経営目標と実績	・・・	P 7
6. 環境経営活動の結果と評価	・・・	P 9
7. 環境関連法規等への違反、訴訟等の有無	・・・	P 17
8. 代表者による全体評価と見直し	・・・	P 18
9. 社会活動の取組み	・・・	P 20



諏訪湖周クリーンセンター（愛称：eco ポッポ）マスコットキャラクター
「えこぼん」

はじめに

当社は 2018 年 4 月 1 日に、環境マネジメントシステムを立ち上げました。このシステムでは、当社の事業年度に合わせ、毎年 4 月から翌年の 3 月までをひとつの区切りとしています。この環境経営レポートは、2024 年度を対象にまとめました。

1. 事業活動の概要

1-1. 名称及び代表者名

会社名	諏訪湖ハイトラスト株式会社
代表取締役社長	山口隆司
現場総括責任者	松本和明

1-2. 所在地

〒394-0055 長野県岡谷市字内山 4769 番地 14

1-3. 環境保全関係の責任者及び担当者

EMS 代表者	松本和明（総括責任者、BT 主任技術者）
環境管理責任者	村越冬季（電気主任技術者）
環境事務局	村越・山本（業務管理員）・井口（事務員）
部門長	寺口（運転責任者）

1-4. 連絡先

TEL 0266-78-1590 FAX 0266-78-1591

E-mail koshu@takumatechnos.co.jp

koshu3@takumatechnos.co.jp

HP <http://www.suwako-ht.jp>

1-5. 事業内容

一般廃棄物処理施設の運営・維持管理業務

1-6. 事業規模

法人設立 2013年11月

資本金 30,000万円

処理対象物 可燃ごみ、破碎・選別後残渣（大型可燃ごみ）

処理能力 110t/日（55t/24h×2炉）

処理量（焼却量） 26,115 t/年（2024年度）

従業員 32名

延床面積 8,572.86 m²

事業期間 2016年12月1日 ～ 2036年11月30日（20年間）

1-7. 対象範囲

全組織・全活動

1-8. 事業概要

諏訪湖ハイトラスト株式会社は、湖周行政事務組合（岡谷市、諏訪市、下諏訪町）が発注する「諏訪湖周クリーンセンター（愛称：eco ポッポ）の運営・維持管理業務」を実現するために設立された特別目的会社（SPC）です。

本事業は、一般廃棄物処理施設である諏訪湖周クリーンセンターの運転、ユーティリティの確保、日常点検、定期点検、部品等の調査、補修等の運営維持管理を、2016年12月1日から2036年11月30日までの20年間にわたり実施するものです。

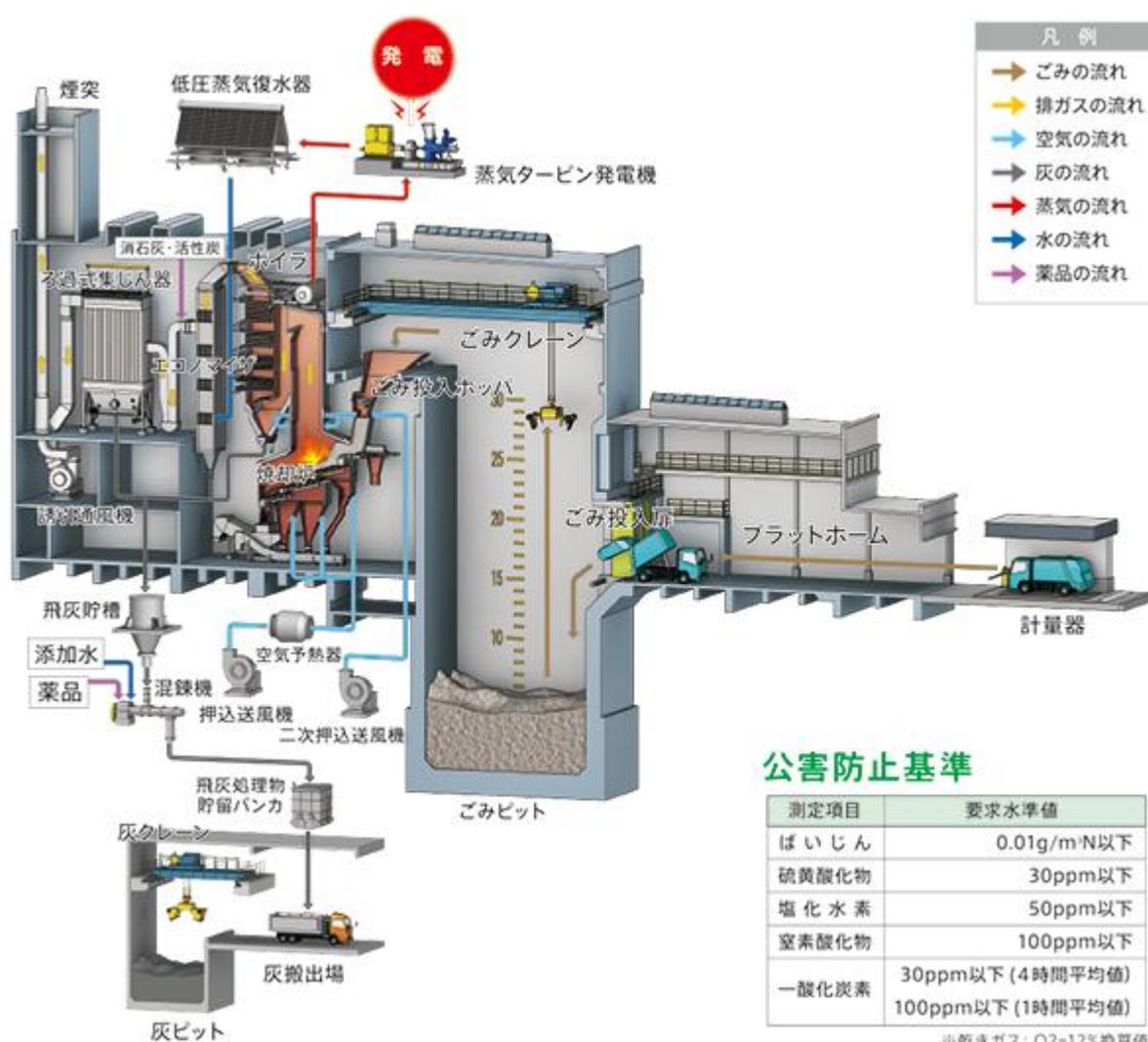
特別目的会社（SPC : Special Purpose Company）とは

事業の独立性の確保を目的に特別目的会社（SPC）を設立することで、出資者等の破たん等が生じた場合でも事業の実施に影響を受けない体制を構築することが可能です。

本事業で諏訪湖ハイトラスト(株)が特別目的会社（SPC）となり、20年間の運営維持管理を行います。

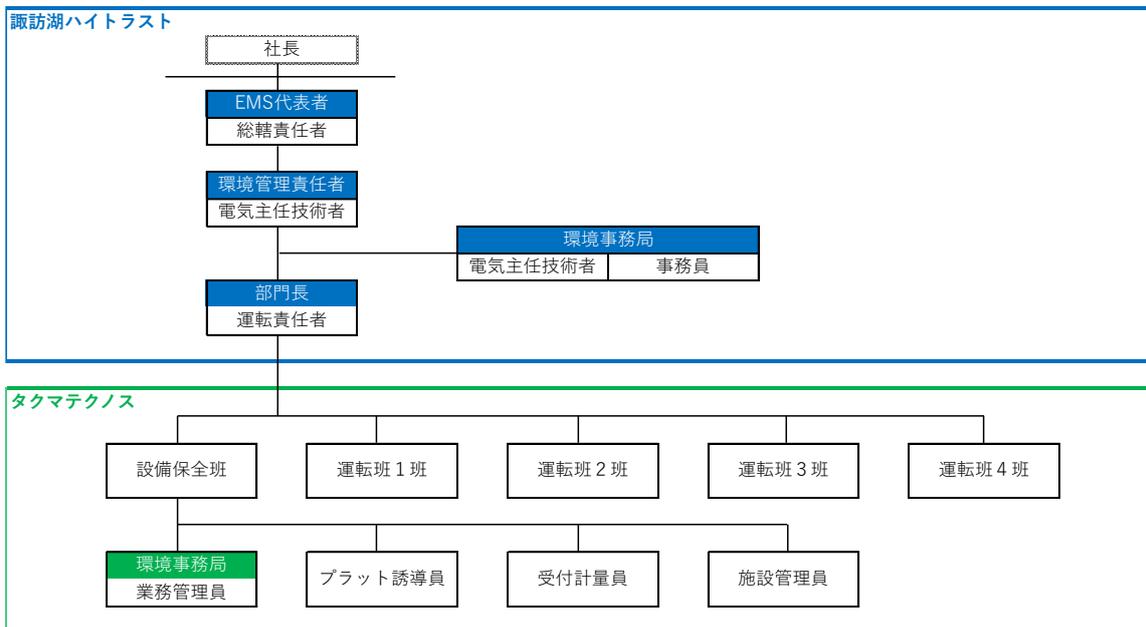
2. 主要設備概要

受入供給設備	計量器、ピット・アンド・クレーン方式
燃 焼 設 備	全連続燃焼式焼却炉(ストーカ炉)
燃焼ガス冷却設備	ボイラ式
排ガス処理設備	ろ過式集じん器、有害ガス除去方式
灰 出 設 備	● 焼却灰: 加湿処理 ● 飛灰: 薬剤処理
発 電 設 備	蒸気タービン発電(発電出力2,050kW)
通 風 設 備	平衡通風方式



3. 実施体制

実施体制図及び役割・責任・権限表



担当者	役割・責任・権限
EMS代表者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 環境管理責任者を任命 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境経営目標・環境経営計画書を承認 代表者による全体の評価と見直しを実施 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 環境経営目標・環境経営計画書を確認・評価 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境経営レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 環境経営目標・環境経営計画書原案の作成 環境経営の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境経営レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
部門長	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営システムの実施 自部門における環境経営方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 特定された項目の手順書作成及び運用管理 自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 教育、訓練の実施、記録の作成 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境経営へ参加

4. 環境経営方針



1. 経営理念

諏訪湖ハイトラスト株式会社は、株式会社タクマと株式会社タクマテクノスにより設立された特別目的会社として、諏訪湖周クリーンセンターにおいて湖周行政事務組合との事業契約に基づき、一般廃棄物焼却処理施設の運営維持管理事業を実施する運営共同企業体です。

この事業の遂行にあたっては、株式会社タクマの社是「技術と人と地球を大切にする」および、本事業の基本方針である「自然を守り、人を育み、地域をつなぐ」事業所運営を目指します。

2. 活動指針

- 1) 当社の経営理念に基づき、運営維持管理業務の遂行にあたっては、次の活動を積極的に推進し、継続的に経営を改善します。
 - ① 搬入される一般廃棄物の適切な受付
 - ② 一般廃棄物の適正かつ効率的な処理
 - ③ 発生する排ガスの安定処理
 - ④ 従業員の安全と健康を確保する安全管理
 - ⑤ 運営状況を地域住民に発信する啓発活動
- 2) 適用される環境関連法規および湖周行政事務組合など行政からの環境に関わる指示事項を遵守します。
- 3) 環境経営方針は全従業員に周知徹底し、一般にも公開します。

制定日：2018年 4月 1日

諏訪湖ハイトラスト株式会社

EMS代表者 松本 和明

5. 環境経営目標と実績

5-1. 環境経営目標

No.	項目	単位	基準年度(実績)	年度目標(計画)		
			2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
	ごみ搬入量	t	27,269	27,758	27,560	27,348
1	CO2総排出量の削減	kg-CO2	72,933	95,474	93,579	99,264
2	ごみ発電量の確保	MWh	14,844	13,770	13,845	12,983
3	購入電力の削減	MWh	84	110	105	120
		kg-CO2	31,775	41,690	39,795	45,480
4	灯油使用量の削減	kL	16.5	21.6	21.6	21.6
		kg-CO2	41,157	53,784	53,784	53,784
5	消石灰使用量の削減	t	135	139	123	129
6	苛性ソーダ使用量の削減	L	2,158	3,175	3,175	3,175
7	塩酸使用量の削減	L	1,700	2,542	2,542	2,542
8	飛灰処理薬剤使用量の削減	L	13,293	13,442	14,771	13,448
9	上水使用量の削減	kL	11,444	11,560	12,479	12,312
10	焼却灰搬出量の削減	t	1,918	1,965	2,013	1,910
11	飛灰搬出量の削減	t	740	763	723	714
12	イベントの有効性の向上	回	1	1	1	1
13	緊急停止0（タービン非常停止）	回	0	0	0	0
14	地域清掃活動参加	回	0	2	2	2
15	改善提案	件	3	2	2	2

(注1) 購入電力のCO2排出係数：0.388kg-CO2/kWh（2021年度中部電力調整後排出係数）

(注2) 本施設の運転計画に基づいて算出するため、目標値が基準年度の実績値を超過する場合があります。



蒸気タービン（9段抽気復水式）



発電機（4極界磁・2,050kW）

5-2. 年度目標（2024年度）に対する実績と結果

No.	項目	単位	2024年度		
			目標値	実績値	結果
	ごみ搬入量	t	27,348	25,609	減少
1	CO2総排出量の削減	kg-CO2	99,264	80,031	○
2	ごみ発電量の確保	MWh	12,983	13,129	○
3	購入電力の削減	MWh	120	100	○
		kg-CO2	45,480	38,002	
4	灯油使用量の削減	kL	21.6	16.9	○
		kg-CO2	53,784	42,029	
5	消石灰使用量の削減	t	129	108	○
6	苛性ソーダ使用量の削減	L	3,175	2,172	○
7	塩酸使用量の削減	L	2,542	1,917	○
8	飛灰処理薬剤使用量の削減	L	13,448	16,762	×
9	上水使用量の削減	kL	12,312	11,529	○
10	焼却灰搬出量の削減	t	1,910	1,717	○
11	飛灰搬出量の削減	t	714	617	○
12	イベントの有効性の向上	回	1	1	○
13	緊急停止0（タービン非常停止）	回	0	0	○
14	地域清掃活動参加	回	2	5	○
15	改善提案	件	2	2	○

(注1) 購入電力のCO2排出係数：0.388kg-CO2/kWh（2021年度中部電力調整後排出係数）



太陽光発電設備（電池モジュール 94 枚・20kW）



自家用工作物・発電所維持管理業務

6. 環境経営活動の結果と評価

No.1 CO2総排出量の削減

2024年度	目標	99,264 kg-CO2
	実績	80,031 kg-CO2
	達成度	19 % 削減

主な取組内容

- ・ ゴミ発電量の確保
- ・ 購入電力の削減
- ・ 灯油使用量の削減

結果と評価

- ・ 個別の目標を達成したことにより
本項目の目標を達成し、取組みの成果を確認できました。

次年度目標

- ・ 本項目に係る個別の目標を全て達成する事でCO2排出量の削減を図ります。



No.2 ゴミ発電量の確保

2024年度	目標	12,983 MWh
	実績	13,129 MWh
	達成度	1.1 % 増加

主な取組内容

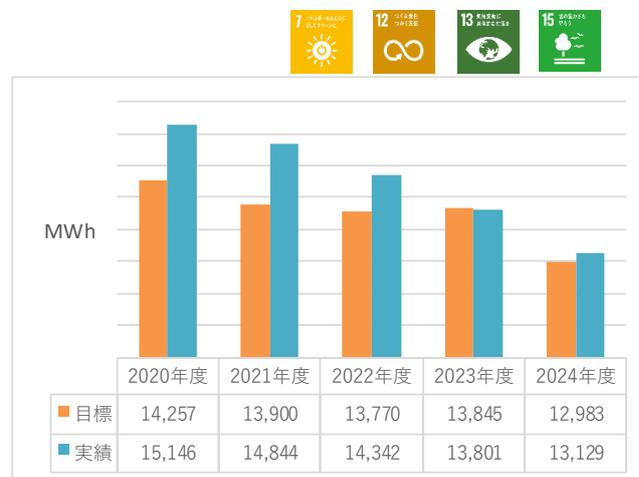
- ・ 焼却炉の安定稼働

結果と評価

- ・ 外的要因（送電線故障・不燃物の混入・電力会社解列依頼）による自立運転や出力低下があったが
焼却炉を安定稼働したことにより、目標を達成できました。

次年度目標

- ・ 焼却炉の安定稼働
- ・ 機器故障時のシミュレーション教育の実施



No.3 購入電力の削減



2024年度	目標	120.00 MWh
	実績	100.27 MWh
	達成度	16.4 % 削減

主な取組内容

- ・空調及び照明設備の管理、省エネ化の推進
 - ①夜間帯の不必要な空調・照明の停止
 - ②管理表に基く空調のスケジュール運用
 - ③蛍光灯のLED化工事
- ・共通休炉期間の節電計画の実施



結果と評価

- ・共通休炉期間に節電計画を実施できた。また、施設内の蛍光灯を順次LED化へ工事を実施した。
- ・空調設備の管理表を適時見直し、適切な運転管理を実施した。
- ・トラブル発生時の早急な対応措置により、計画外の買電を回避し、購入電力の増加を防止できました。
- ・タービン開放点検のため、例年より受電期間が長かったが、前述の取組みにより目標を達成できました。

次年度目標

- ・空調及び照明設備の管理、省エネ化の推進
- ・共通休炉期間の節電計画の実施
- ・機器故障時のシミュレーション教育の実施

No.4 灯油使用量の削減



2024年度	目標	21.6 kL
	実績	16.9 kL
	達成度	21.9 % 削減

主な取組内容

- ・焼却炉の立上げ立下げ工程の管理



結果と評価

- ・トラブルによる焼却炉の停止に伴い、計画外のバーナの稼働（灯油使用）がありましたが、定常時の立上げ立下げ工程の管理が有効であり、目標を達成できました。

次年度目標

- ・焼却炉立上げ立下げ工程の管理
- ・機器故障時のシミュレーション教育の実施

No.5 消石灰使用量の削減



2024年度	目標	128.6 t	
	実績	108.3 t	
	達成度	15.8 %	削減

主な取組内容

- ・設定値の確認と変更
 - ①消石灰の品種による排ガス反応効率の調査と運用（経過観察）



結果と評価

- ・運送業2024年問題を踏まえ、消石灰の品種を増やし調達力の安定化を図りました。
- ・設定値の確認と変更が有効であり、目標を達成できました。

次年度目標

- ・設定値の確認と変更

No.6 苛性ソーダ使用量の削減



2024年度	目標	3,175 L	
	実績	2,172 L	
	達成度	31.6 %	削減

主な取組内容

- ・設定値の確認と変更
 - ①灰汚水移送ポンプの運転方法変更についての経過観察



結果と評価

- ・設定値の確認と変更が有効であり、目標を達成できました。

次年度目標

- ・設定値の確認と変更

No.7 塩酸使用量の削減



2024年度	目標	2,542 L	
	実績	1,917 L	
	達成度	24.6 %	削減

主な取組内容

- ・設定値の確認と変更
 - ①灰汚水移送ポンプの運転方法変更についての経過観察



結果と評価

- ・設定値の確認と変更が有効であり、目標を達成できました。

次年度目標

- ・設定値の確認と変更

No.8 飛灰処理薬剤使用量の削減



2024年度	目標	13,448 L	
	実績	16,762 L	
	達成度	△ 24.6 %	増加

主な取組内容

- ・飛灰の適正かつ効率的な処理
 - ①余剰薬剤量の自主分析
 - ②薬剤添加率設定の変更と経過観察
 - ③新薬剤の運用と経過観察 (2022年度より)



結果と評価

- ・飛灰処理物に薬剤添加量の不足がないことを分析で担保しつつ余剰添加量の削減に努めましたが搬入ごみの組成の変化により目標を達成できませんでした。

次年度目標

- ・飛灰の適正かつ効率的な処理

No.9 上水使用量の削減



2024年度	目標	12,312 kL
	実績	11,529 kL
	達成度	6.4 % 削減

主な取組内容

- ・上水使用量の確認と無理のない節水
 - ①生活水の節水喚起
 - ②植栽への雨水の積極利用
 - ③焼却炉の安定稼働



結果と評価

- ・焼却炉の延命化のため、炉内水噴霧量の設定を増加する方向へ変更しましたが生活水の節水等の取組みにより、目標を達成できました。

次年度目標

- ・上水使用量の確認と無理のない節水

No.10 焼却灰搬出量の削減



2024年度	目標	1,910 t
	実績	1,717 t
	達成度	10.1 % 削減

主な取組内容

- ・焼却炉の安定稼働および完全燃焼



結果と評価

- ・焼却炉の安定稼働を継続できたことにより、目標を達成できました。

次年度目標

- ・焼却炉の安定稼働および完全燃焼

No.11 飛灰搬出量の削減



2024年度	目標	714 t
	実績	617 t
	達成度	13.6 % 削減

主な取組内容

- ・焼却炉の安定稼働および完全燃焼
- ・飛灰処理添加水比率の最適化



結果と評価

- ・飛灰処理に使用する水の添加が過剰とならぬよう、適正な調整を行うことで処理物の生成量を削減できました。

次年度目標

- ・焼却炉の安定稼働および完全燃焼

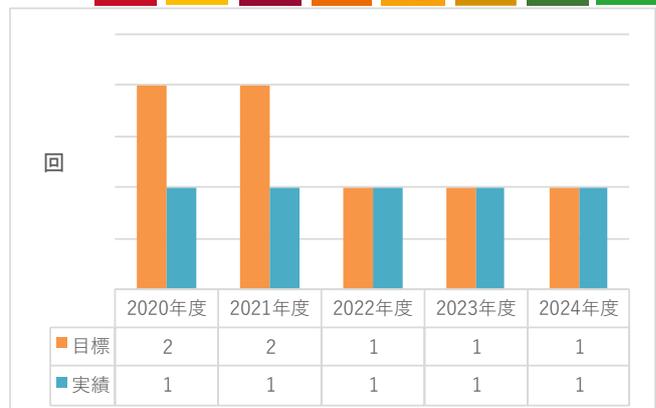
No.12 集客イベントの有効性の向上（社会貢献）



2024年度	目標	1 回
	実績	1 回
	達成度	達成

主な取組内容

- ・イベントの計画及び実施
 - ①第9回ecoポップ『ふれあいフェス』（7/21）
 - ②組合広報誌「えこぼんだより」発行（下期）



結果と評価

- ・集客イベントを計画通り実施し、来場者数は想定200人を上回る365人と好評であった。
- ・下期は組合広報誌の発行に協力。当センターに関する最新の情報や取り組みなど地域住民の方々へ、情報の公開と共有を行いました。

次年度目標

- ・イベントの計画および実施

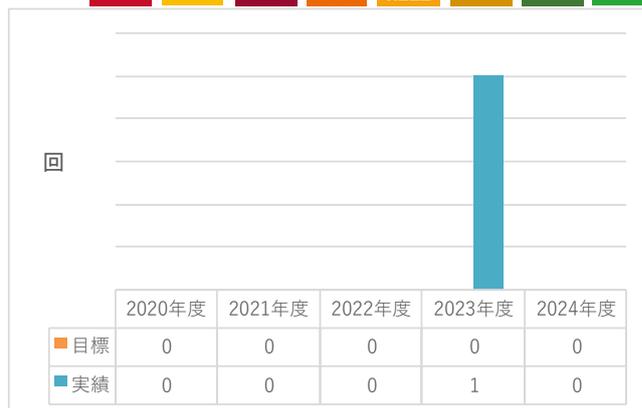
No.13 緊急停止0（タービン非常停止）



2024年度	目標	0 回
	実績	0 回
	達成度	達成

主な取組内容

- ・異常の早期発見
 - ①連系する配電系統の容量増減の把握
 - ②構内外設備の増減に伴う整定値等の見直し
 - ③日常・月次・年次点検の実施



結果と評価

- ・電力系統との保護協調が有効であり、系統側のトラブルの際に不必要な停電及びタービン非常停止を回避できました。
- ・構内機器トラブル発生時の早急な対応措置により、計画外の買電を回避できました。

次年度目標

- ・異常の早期発見及びトラブルの原因究明と再発防止措置の実施
- ・自主保安体制の履行、点検の実施、電力会社との情報共有
- ・機器故障時のシミュレーション教育の実施

No.14 地域清掃活動参加（社会貢献）



2024年度	目標	2 回
	実績	5 回
	達成度	達成

主な取組内容

- ・地域の清掃活動に参加
 - ①岡谷エコフェス（5月）
 - ②諏訪湖一斉清掃（5月）
 - ③下諏訪クリーン祭（8月）
 - ④諏訪湖及び河川一斉清掃（10月）
 - ⑤クリーンセンター周辺清掃（11月）



結果と評価

- ・計画通りに清掃活動に参加しました。環境に携わる事業をさせていただいている弊社として1つのごみも見逃さないよう全力で清掃活動に取り組みました。

次年度目標

- ・地域の皆様に愛される企業であるよう、清掃活動に積極的に参加

No.15 改善提案

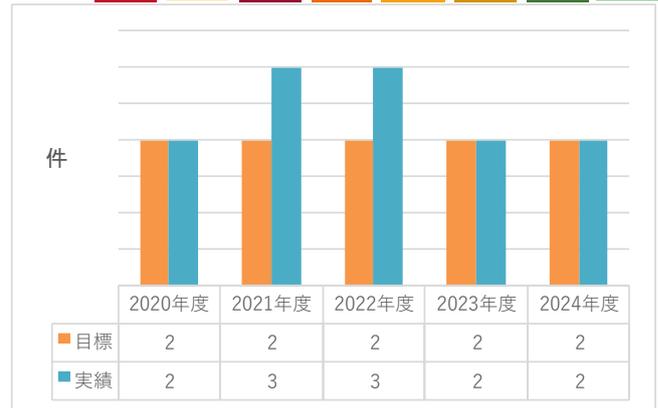


2024年度	目標	2 件
	実績	2 件
	達成度	達成

主な取組内容

・改善提案の立案

- ①安全、コスト削減、設備延命化、作業効率の改善・簡素化等の改善箇所の確認及び提案票の作成・提出



結果と評価

- ・設備の延命化等に関する提案票の提出がありました。
- ・安全に関する提案票の提出はありませんでしたが、毎月実施される安全衛生活動において逐次不安全箇所の確認と改善を実施している。

次年度目標

- ・第一に安全、その上でコスト削減、作業の効率化、環境負荷低減等に向け引き続き改善に努める。



7. 環境関連法規等への違反、訴訟等の有無

本施設に適用される法令等は下表のものが該当し、2025年3月31日現在すべての遵守が確認できています。

また、過去5年間にわたり関係当局から違反等の指摘はありません。

法令等	主な法規制等内容	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・適切な処理	○
大気汚染防止法	・規制値の遵守	○
水質汚濁防止法	・事故時の措置（事故の有無）	○
下水道法	・規制値の遵守	○
ダイオキシン類対策特別措置法	・規制値の遵守	○
騒音規制法	・規制値の遵守	○
振動規制法	・規制値の遵守	○
悪臭防止法	・規制値の遵守	○
労働安全衛生法	・体制の整備 ・危険・健康障害防止措置	○
作業環境測定法	・作業環境測定	○
消防法	・選任、届出	○
毒劇法	・取り扱い、表示	○
公害の防止に関する条例	・上乘せ基準	○
フロン排出抑制法	・簡易点検 ・有資格者による定期点検	○
岡谷市公害防止条例	・規制値の遵守	○
要求水準（環境関連）	・規制値の遵守	○

8. 代表者による全体評価と見直し

EA21 マネジメントレビュー記録

2024 年度

(1/2)

インプット（審議事項）	アウトプット（見直し結果：代表者指示）
<p>(1)問題事項及び是正処置 （各部署長）</p> <p>① 施設の運営での問題点：なし 外的要因（送電線故障及び焼却炉内不燃物混入）によるトラブルがあったが、ほぼ計画通りの運転ができた。 また、運送業 24 年問題を踏まえ供給力の安定化を図り、備える体制を構築できた。</p> <p>② 改善提案：2 件</p> <p>③ 搬入車両の乗務員がごみピットに転落する事象が発生。マニュアル通り適切に対応した。再発防止対策について関係各所と連携・協力し早急を実施した。</p>	<p>① トラブルへの対応内容を共有し、技能と知識を向上させると共に、想定される事象への対応方法を充実させること。</p> <p>② 安全を第一優先とした上でコスト削減に向け改善に努めること。</p> <p>③ 第一に事故の再発防止として安全作業の徹底を図り、一方で事故発生時の対応手順を再確認して万一来に備えること。</p>
<p>(2)地域住民などの利害関係者からの苦情及び是正処置（詳細は年次報告書）（環境管理責任者）</p> <p>① 苦情：3 件</p> <p>② イベントの総括：来場者数 365 名となった。</p>	<p>① 対応内容を精査し今後に生かす事で、地域住民との信頼関係を築くよう努めること。</p> <p>② 引き続き、施設や環境問題へ関心を持ってもらう工夫を模索していくこと。</p>
<p>(3)法規制、遵守評価、社会状況の変化（環境管理責任者）（環境法規制等取りまとめ表）</p> <p>① 遵守評価の懸念事項：なし</p> <p>② 新型コロナ・インフルエンザの感染継続</p> <p>③ 関連法規制の改正等はなし</p>	<p>① 維持するよう努めること。</p> <p>② 社会の対応状況に準ずるも、各種感染症の予防対応を続けること。</p> <p>③ 法改正に注視し対応に漏れの無いよう努めること。</p>
<p>(4)目標の達成状況（事務局）</p> <p>① 共通休炉期間において節電計画を実行した。タービン検査により期間延長し、購入電力の削減はできなかった。（前年比 111%） 単位時間当たりでは削減。（前年比 90%）</p> <p>② 不燃物（金属）が焼却炉内に混入閉塞し、計画外の非常停止となったため、灯油使用量の削減はできなかった。（前年比 117%）</p>	<p>① 安全衛生を重視しながらも電力削減できる点が無いかあきらめず追及すること。</p> <p>② 持ち込みごみの内容確認などで不燃物の混入防止に努めること。水際での対策には限界もあるため、行政を通じた分別ルールの啓発を継続的に実施いただくよう働きかけること。</p>

インプット（審議事項）	アウトプット（見直し結果：代表者指示）
<p>(4)目標の達成状況（事務局）</p> <p>③ 運送業24年問題を踏まえ消石灰の品種を増やし調達力の安定化を図った。焼却炉の安定稼働・完全燃焼の実施により、消石灰使用量の削減ができた。（前年比83%）</p> <p>④ 計画通りの運転を実施したことにより、上水使用量の削減ができた。（前年比94%）</p> <p>⑤ 集客イベントを計画通り実施し、好評であった。</p> <p>⑥ 電力系統との保護協調が有効であり、タービン緊急停止はなかった。</p>	<p>③ 強化された調達力が十分か検討しつつ、無駄の無い使用が出来ているか監視を続ける事。</p> <p>④ 一元的な視点に留まらず、施設全体としてメリットのある改善があれば取り入れること。</p> <p>⑤ 感染症予防等にも留意の上、地域の皆様に喜んでいただけるコンテンツの提供に努めること。</p> <p>⑥ 継続できるよう努めること。</p>
<p>(5)負荷の自己チェック、取組の自己チェックの結果（事務局）</p> <p>① タービン緊急停止：なし</p> <p>② 使用薬品量の低減：苛性ソーダ、塩酸、飛灰処理薬剤（キレート剤）は使用量が増加した。飛灰処理薬剤については搬入ごみ組成の変化により増加傾向となっている。（前年比123%）</p> <p>③ 地域イベント：イベントを計画通り実施し、好評であった。また、周辺市町が実施する社会活動や環境活動に積極的に参加した。</p>	<p>① 継続できるよう努めること。</p> <p>② メリットがどこにあるか多次元に判断しながら、削減可能な部分が無いかを追求すること。</p> <p>③ 環境問題への関心を、より身近なごみ分別の必要性を認識してもらう事へとつなげてもらえるよう、継続的に取り組んで欲しい。</p>
<p>(6)改善の提案</p> <p>E A 2 1 の活動 安定安心の活動をさらに推進する。</p>	<p>施設が安定期に入った反面、設備の消耗や経年による劣化など新たに対処すべき事象が増えている。経験やノウハウの蓄積と活用に努め安定安心の操業を目指してほしい。</p>
<p>方針、目的、目標、EMSの見直しの必要性の言及</p> <p>〈方針〉 <input type="checkbox"/>必要 <input checked="" type="checkbox"/>不必要</p> <p>〈目標〉 <input type="checkbox"/>必要 <input checked="" type="checkbox"/>不必要</p> <p>〈環境経営システム〉 <input type="checkbox"/>必要 <input checked="" type="checkbox"/>不必要</p>	

9. 社会活動の取組み

地域環境維持活動として、毎年の恒例行事である地元の清掃活動等に積極的に参加しています。諏訪湖や周辺河川の清掃、当施設周辺の清掃活動に参加し、環境美化に努めています。また、集客イベントを実施し、当施設の役割やごみ処理設備、ごみ発電等を地域の方々が楽しくより身近に感じていただけるよう活動しています。



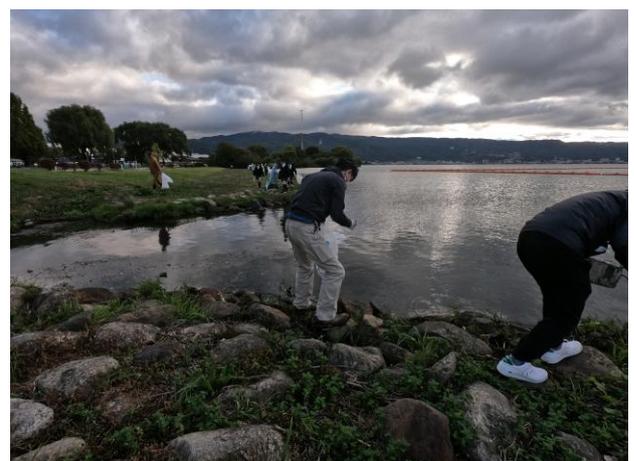
24/05/26 諏訪湖及び河川一斉清掃への参加



24/08/11 下諏訪クリーン祭への参加



24/10/06 諏訪市環境フェアへの参加



24/10/20 諏訪湖及び河川一斉清掃への参加



24/11/01 クリーンセンター周辺清掃活動への参加



24/07/21 第9回ふれあいフェスの開催

諏訪湖ハイトラスト株式会社

